

漁況予報 い わ し

第207号

【2018年5～6月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、3月は34トンと前年(252トン)及び平年※¹(114トン)を大きく下回りました。8日に西湘地区を中心に中羽イワシがまとまって来遊しましたが、これ以外は散発的な漁模様となりました。4月は25トン(速報値)と、前年(9トン)を上回ったものの平年(55トン)を下回りました。24日および26日に平塚～二宮地区で中羽イワシの来遊がありました。両月とも前号で期待した大羽イワシの来遊はありませんでした。

まき網は、相模湾側で餌イワシとして断続的に漁獲しました。

なお、早期発生群(前年11～12月生まれ)のヒラゴ(被鱗体長※²7～11cm)がゴマサバ幼魚やカタクチイワシに混じるようになってきました。

【カタクチイワシ】

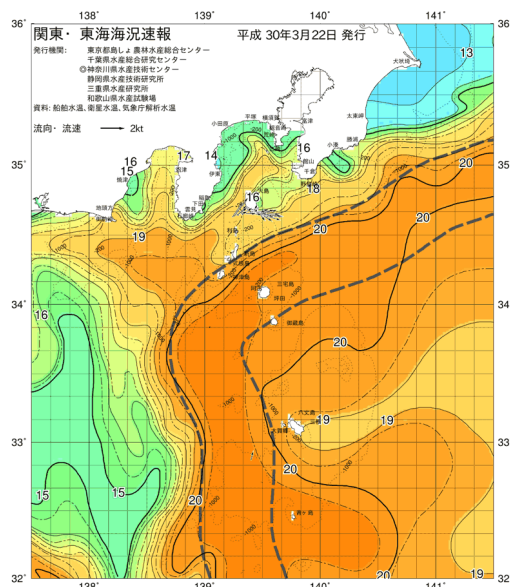
主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、3月は130トンで、前年(277トン)および平年(220トン)を下回りました。4月は25トン(速報値)で、前年(285トン)および平年(240トン)を大きく下回りました。

鴨居地区および佐島地区のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲しました。

魚体は、9～11cmの小型成魚主体でした。

【シラス】

相模湾のシラス漁は3月11日に解禁となりましたが、暫くは水温が13℃台と低かったこともあり漁がありませんでしたが、21～22日に大島西水道から湾東側に暖水波及が発生したことで(右図)、長井沖でマシラス100kg/統の漁獲があり、これを皮切りに徐々に漁獲量が増加傾向となりました。三崎、長井、大磯地先および小坪沖や鎌倉沖が主漁場となり、4月に入ると平塚地先も加わり、全域で漁期入りとなりました。ただし、やや沖合域(水深20～40m)が漁場となる場合が多く、片瀬～茅ヶ崎等の沿岸漁



場では不安定な漁場形成となりました。

組成は、漁期入り当初はマシラス主体でしたが、4月に入ってからカタクチシラス主体となりました。

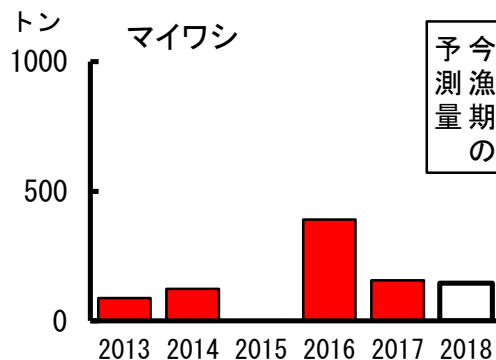
= 予 報 =

【マイワシ】

今漁期は、0歳魚（2018年級群）主体に、2017年生まれの小羽マイワシ（13～15cm）が混じるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年並の約146トンと予測されます。

過去5年の5・6月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

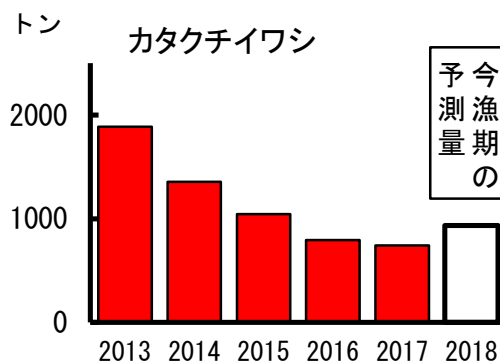


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、小型成魚（9～11cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、前年をやや上回る約935トンと予測されます。



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、4月以降に生まれたカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年並の約122トンと予測されます。

